

# 子どもが自分に合った学びをつくる授業で、 多様な個を育むインクルーシブ教育を目指す

## 神奈川県 海老名市立今泉小学校

海老名市立今泉小学校は、インクルーシブ教育の一環として「個別最適な学び」を目指し、子どもがそれぞれ自分で授業のめあてを設定して自分のペースで学ぶ「自由進度学習」を、一部の授業に取り入れた。学ぶ場所や、個別学習が協働学習かといった学び方を自分で選び、子どもが主体となって学びを進めることで、次第に主体性や自己調整力が生まれ、授業以外の場でも自分で考えて行動するようになっている。



◎教育理念は「真理を愛し、生命を尊び、創造と協力の喜びを知り、心身共に健全で調和のとれた児童を育てる」。2019年度から4年間、生活科・「総合的な学習の時間」の研究に取り組み、地域素材を活用した探究活動を目指すという授業づくりに力を注いできた。

開校 1981(昭和56)年

校長 和田修二先生

児童数 938人

教員数 50人

学級数 35学級(うち特別支援学級6)

### インクルーシブ教育の一環で 「自由進度学習」を実施

海老名市立今泉小学校は、目指す学校像に「一人ひとりの個性を大切にできる学校」を掲げ、その実現に向けて、インクルーシブ教育に力を入れている。その背景には、学区内で急速に進んだマンション開発の影響で児童数が増え、子どもが抱える困り感が多様になってきたことがあると、和田修二校長は語る。

「本校には、教室に入れない、授業についていけない、外国籍で特別な支援を要するなど、多様な状況にある子どもが在籍しています。2023年度は、以前から行ってきたインクルーシブ教育を校内研究のテーマとし、全校で研究を進めています(図1)」

インクルーシブ教育の考え方は授業づくりにも取り入れており、「個別最適な学び」を実践しようと、2022年度、子どもが自分で授業のめあてや学び方を選び、自分のペースで学ぶ「自由進度学習」を一部の授業で始めた。

「物事を理解する速さは子どもそれぞれ

それぞれ異なり、一斉授業で個に応じた指導を行うのは容易ではありません。その点、自由進度学習は、子どもが自分の理解度やペースに合わせて学べるという利点があります(和田校長)

2022・23年度と6年生担任を務める梅村周平先生は、いずれの年度も1学期は一斉授業を行い、2学期から算数で自由進度学習を取り入れた。

「自由進度学習では、子どもは好きな場所に移動し、自分の考えで学びを進めます。学級経営がしっかりしていないと、遊んだりおしゃべりをして学びが成立しない場合があるので、1学期には子どもとの信頼関係を築くとともに、学びの楽しさや大切さを伝えていました(梅村先生)

2学期になると、子どもに自由進度学習について説明し、「試してみる?」と尋ねた。すると、多くの子どもが「やってみたい!」と興味を示したことから実施に踏み切った。

「インクルーシブ教育の基本的な考え方でもありますが、教員の考えで決めずに、子どもに『どんな授業を受けてみたいか』という選択肢を示



校長

和田修二

わだ・しゅうじ

同校に赴任して3年目。



GIGA チームリーダー

梅村周平

うめむら・しゅうへい

同校に赴任して2年目。  
6年生担任。



児童会担当

三宅究香

みやけ・すみか

同校に赴任して4年目。  
6年生担任。



体育主任

川口 陽

かわぐち・あきら

同校に赴任して4年目。  
1年生担任。



外国語担当

柳楽 瞳

なぎら・ひとみ

同校に赴任して3年目。  
5年生担任。

して、一緒に決めることを大切にしています」(梅村先生)

## 単元の見通しを持った上で 本時の学びを子どもが決める

梅村先生が行う自由進度学習の授業の進め方を、6年生の算数の単元「角柱と円柱の体積の求め方」(図2)を例に見ていく(P.7授業レポート)。

梅村先生は、単元の最初の授業で、5つのめあてとそれに対応する課題(解説)を学習支援ソフトで子どもに配布し、子どもが学びの見通しを持ち、1人で学びを進められるようにした。各授業では、子どもは5つのめあてを見て、本時は何に取り組むか(進度)、どこで学ぶか(場所)、1人でまたは誰と学ぶか(個別学習・協働学習)などの学習計画を、自分のめあてとして立てた(授業レポート1)。

その間、梅村先生は、子どもが自分のめあてを決められるよう、「自由進度学習では、何を指して、どのように学べばよいか分からなくなる人がいます。そんな時は5つのめあてを見返してみてください」「分からないことがあったら、1人で悩むのもよいけれど、友だちに聞くともっとよいと思います。歩き回れるのが、この学習のよさですよ」と声をかけた。

前時に子ども間で進度の違いが生じていたため、本時で設定した自分のめあても、「友だちと一緒に協力して円柱までいきたい。いつもと違うオープンスペースでやりたい」「三角柱の求め方をマスターする。自分が一番やりやすい場所ややり方を見つける」など、自分に合ったものだった。

## 教員は、タブレット端末で 全員の学習進度を常に把握

全員が自分のめあてを設定し終え

図1 インクルーシブ教育の充実に向けた校内研究

### 研究テーマ

誰もが安心して主体的に学び、共に育つ学校づくりを目指して  
～インクルーシブ教育の充実に向けて～

### 研究内容

- ① 学校づくり
  - お互いを認め合い、個性を生かし合える学校風土の醸成
  - ステップルールの運営(現状の把握、教師のかかわり方、環境等)
  - 支援体制の充実(インクルーシブ教育チーム、児童指導チーム、支援・相談チーム等)
- ② 授業づくり
  - 支援方法の研究(教育的配慮の工夫等)
  - 授業改善の手立て(分かりやすい授業、学び方を大切にした授業等)
- ③ 学級づくり
  - 教室環境整備(ユニバーサルデザイン等)
  - 支援級児童の学びの充実(交流級での過ごし方、合理的配慮の工夫等)

### 研究方法

- ① 研究協議
  - テーマを決めて協議
- ② 事例研究
  - 学年や学年団ごとに事例を出し合いながら、よりよい支援方法を研究していく
  - 講師、指導助言者を招いて指導を受けながら、理解を深める

※今泉小学校の提供資料を基に編集部で作成。

図2 6年生 算数 単元「角柱と円柱の体積の求め方」5つのめあて(全5時間)

1	四角柱の体積の求め方を考えよう
2	角柱の体積の求め方を考えよう
3	円柱の体積の求め方を考えよう
4	特殊な図形の体積の求め方を考えよう
5	たしかめよう

本単元は全5時間で、5つのめあてを設定。最後の授業までにすべてのめあてが達成できていればよく、各授業で、子どもは自分のペースで学びを進められる。

※今泉小学校の提供資料を基に編集部で作成。

ると、子どもは場所を移動し、学びを始めた(授業レポート2a)。学ぶ場所は、教室と同じ階であればどこでもよいというルールだ。

子どもはタブレット端末で、梅村先生が教科書の問題などを基に作成した課題に取り組んだ。そして、分からない問題があると、前時の課題を見直したり、友だちに質問したりと、自分で選んだ方法で問題を解決しようとしていた(授業レポート2b)。

子どもがタブレット端末に入力した内容は、教員用端末でリアルタイムに確認できる。梅村先生はそれを見取りながら、子どものいる場所を回り、学びを支援した。

「自由進度学習は、支援を必要とする子どもを教員が把握し、一人ひとりの学びをしっかり支えます。ICT

の活用によって見取りがしやすくなりました」(梅村先生)

梅村先生は支援の際、子どもに答えを教えるのではなく、やり取りをしながらつまづいている点に気づかせ、「友だちに聞いてごらん」などと学び合いを促した(授業レポート2c)。

また、自分のめあてを達成した子どもは、デジタルドリルで問題演習に取り組んだり、次のめあてに進んだりした(授業レポート2d)。

そうして35分間の自由進度学習が終わると、子どもは教室に戻り、振り返りを入力した(授業レポート3)。梅村先生は、「自分のめあてに対してどれくらいできた?」「難しかったことや分からなかったことは、明日の自分のめあてになるから、書き残しておこう」などと、振り返りを次の学び

## 授業レポート

### 6年生 算数 単元「角柱と円柱の体積の求め方」全5時間の2時間目

本時のめあては、四角柱・角柱・円柱・特殊な図形の体積の求め方から、子どもがそれぞれ選択

#### 1 自分でめあてを設定 5分間



子どもは、本時（2時間目）の自分のめあてとして、取り組む内容と学び方、学ぶ場所を決めて端末に入力。梅村先生が全員の入力を確認して学びを開始。

#### 2 自由進度学習



子どもは、廊下や階段など、各自で移動して課題に取り組んだ。床に座ったり寝そべったりと、姿勢も自由だ。教室にとどまり、1人で学ぶ子もいた。



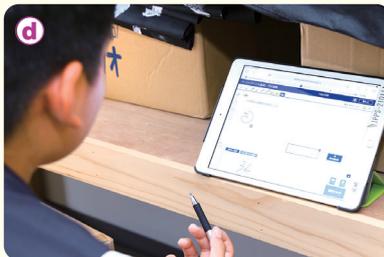
廊下のオープンスペースにあるテーブルに集まっていたグループは、それぞれ自分の課題に取り組み、分からないことがあると質問して教え合っていた。

35分間

#### 3 振り返りを入力 5分間



梅村先生は、手元の端末で子どもの学習状況を確認しながら、子どもがいる場所を回り、個別に支援した。子どもからの質問には、「Aさんが分かっているんだよ」などと学び合いを促した。



めあてを達成すると、デジタルドリル\*で同じ分野の別の問題に取り組む子どももいた。次時の課題に進んだり、発展問題に取り組んだり、自分の理解度や意欲に応じて学びを発展させていた。



自分のめあての到達度や学習した場所などについて振り返りを入力。梅村先生は、「自分がどんな環境なら集中できるか分かったかな？」など、次時の学びに生かせるように視点を伝えた。

に生かせるように声をかけた。

本時の振り返りでは、子どもは、「角柱の体積の求め方が全部覚えられた。人の少ないところで1人で勉強するのが自分に向いていることが分かった」「予定よりも早く終わらせることができて、（4つめのめあての）特殊な図形にも取り組めた」「少し暗くシーンとしている場所だとすごく集中できました」などと書いていた。

梅村先生は、宿題にも自由進度学習の要素を取り入れており、単元ごとにまとめて課題を渡し、期限日ま

で提出すればよいとしている。

「子どもは『この日は忙しいから、先にやろう』などと、自分で日程を調整しながら取り組んでいます。自分で計画を立てて実行する力は、中学校以降にますます重要になると考えています」（梅村先生）

### 授業以外の場面でも自分で考えて行動するように

自由進度学習は、おおむね子どもに好評だ。子どもへの授業アンケート

トには、「自分のペースで進められる」「自分の得意・不得意が分かりやすい」「友だちと協力できる」といったよさが書かれている（図3）。

自由進度学習の実践を通して、子どもはどのように変容していくのか。授業では、主体性や自己調整力を発揮し、自力で、あるいはほかの子どもと協働しながら問題を解決しようと、意欲的に学びを進めている。

そうした主体的な姿勢は、授業以外の場面でも見られるという。

「『次は何をすればよいですか』な

\* ベネッセのAIドリル「ドリルパーク」。

図3 子どもの自由進度学習に対する評価

自分のペースでゆっくり進められるので、落ち着いて焦らずに取り組める。自分の落ち着く場所で勉強できるので、より理解を深めやすい。

自分のペースで進められるのでとてもやりやすかった！ 分からない問題を友だちに教えてもらうことで、できることが多くなっていった楽しかった。いつもより多く進められた気がした。でも、友だちとけっこう無駄話もしてしまったので、そこは注意したいと思った。

ほかの人を待たずに1人でどんどん進められるからよい。

自分の好きな場所や座り方、ペース、自分が取り組みやすい方法などを見つけることができ、勉強に集中できるようになりました。

自分の得意や不得意がすぐに分かるし、集中できる場所を見つけることができた。

※今泉小学校の提供資料を基に編集部で作成。

どと、子どもから聞かれることがほとんどなくなり、子どもが自分で考えて行動する姿が見られるようになりました。例えば、朝、私が教室に行くのが遅れた時は、子どもが自分たちで朝の会を始めていたり、体育館で行った集会では、教員が指示しなくても体育館に着いたら整列していました」（梅村先生）

授業以外の教育活動にも自由進度学習の要素を取り入れている。2022年度の運動会では、毎年6年生が演じてきたソーラン節の踊りを今年もするかどうかを6年生に尋ね、踊りたいという子どもが多いことを確認してからプログラムに取り入れた。そして、6年生の実行委員の子どもが教員の支援を受けながら踊りの練習用の動画を作成し、夏季休業中に、各自がその動画を見ながら練習することにした。すると、夏季休業明けには、ほとんどの子どもが踊れる状態になっていた。

さらに衣装についても、実行委員の子どもが話し合い、「かっこいいから裸足がよい」「ケガが怖いから靴を履きたい」といった議論が交わされた結果、裸足でも靴でも個人の判断に任せるという結論になった。

### 他学年や他教科にも導入し、試行錯誤を重ねる

梅村先生の実践をきっかけに、自由進度学習は校内に広がり始めている。川口陽先生は6年生担任だった2022年度に、同学年の梅村先生の授業を参考にして自由進度学習を始めた。

「子どもは意欲的に学んでいましたが、一人ひとりの学習進度を把握する難しさがありました。少数ですが、私語に夢中になる子どももいて、クラスの間関係や学びの雰囲気づくりの大切さを実感しました」（川口先生）

川口先生は、2023年度は1年生の担任を務めている。国語のひらがなの学習では、文字の形やデザインが異なる複数のプリントを用意し、子どもがその中から選んで学べるようにし、算数の単元末に行う問題演習では、教室の好きな場所で友だちと一緒に取り組めるようにした。

柳楽瞳先生は、2023年度から社会の授業で自由進度学習を取り入れており、その理由をこう語る。

「社会の授業にしたのは、一斉授業では暗記学習になりやすく、子どもが楽しそうではない印象が強かったからです。最初に『自分で分からないことを見つけて学んでいく勉強法

だよ』などと、自由進度学習のねらいを丁寧に説明しました」

単元の重要な点を「問い」として設定し、各自が教科書やタブレット端末で調べてまとめる学習を行ったところ、子どもは、柳楽先生の期待以上に熱心に取り組んだ。

『早く社会の授業をしたい』『家でもやってきた』など、それまで聞いたことのない前向きな発言に驚かされました。自分で考えてまとめるという学びに面白さや楽しさを見いだし、学習意欲が引き出されたのだと思います」（柳楽先生）

柳楽先生が子どもに授業アンケートを取ったところ、自由進度学習に肯定的だったのは8割で、2割は一斉授業がよいと答えた。

『先生の話の方が分かりやすい』『仲がよい友だちが休むと1人になる』といった理由で、一斉授業がよいと答えた子どもがいました。そうした子どもの声を踏まえて、授業改善に取り組んでいます」（柳楽先生）

2023年度、梅村先生と一緒に6年生担任を務める三宅究香先生も、今後、自由進度学習を取り入れる予定だ。

「梅村先生の授業を見ると、1人で集中する子どももいれば、友だちと意見を交わしながら楽しそうに取り組む子どももいて、自由進度学習はとて有意義だと感じています。校内での情報共有を緊密にして、自分の実践に生かしていきたいと思います」

今後も同校は、自由進度学習を含めたインクルーシブ教育の充実に努めていく。

「私の好きな言葉は『試行錯誤』、嫌いな言葉は『旧態依然』です。『とりあえずやってみようよ』と先生方に呼びかけるとともに挑戦しやすい環境を整えて、子ども一人ひとりの個性を大切にする教育活動の実現を目指していきます」（和田校長）